

## 第6回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議録

日 時：令和元年5月30日（木） 午後1時30分から午後3時30分

会 場：鳥取市役所 本庁舎6階 小委員会室

出席者：《委員》

山下 恭史 委員長、川口 有美子 委員、田村 康悦 委員、徳本 敦子 委員

長屋 幸美 委員、松本 公彦 委員、谷口 稜 委員

《鳥取市》

行財政改革課／河口行財政改革課長、谷口行政経営係長、藤原主任、岩田主任

---

### 会議内容

#### 1. 開会

##### 谷口係長：

それでは定刻となりましたので、これより第6回行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本委員会の設置要綱第5条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と規定されていますが、本日は全10名のうち7名の方にご出席をいただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。では、山下委員長より開会のご挨拶をいただきます。

#### 2. あいさつ

##### 山下恭史委員長：

委員の皆様におかれましては、暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。全国的には悲しいニュースなども流れていますが、ここ鳥取では明るい話題も多いかなと思います。例えば直近では因幡但馬エリア、いわゆる麒麟のまち圏域での麒麟獅子舞の日本遺産の登録でありますとか、ゴールデンウィーク明けの5月12日には山陰道の鳥取西道路の全線開通がありました。また公共交通の結節点であります鳥取駅の北口では商業施設を核とした地域の活性化策の官民を挙げての検討がなされようとしております。また、反対の南口側では鳥取市役所新本庁舎の建設が急ピッチで進められています。こういった事業や施策が組み合わさって、賑わいがさらに創出されて地域の活性化に繋がっていくんだという風に思っております。

今日は主には前回ヒアリングしたもののとりまとめの作業をしていくということになりますので、何卒よろしく願いいたします。

#### 3. 議事

##### 谷口係長：

ありがとうございました。それでは以後の進行は山下委員長様にお願いいたします。

**山下恭史委員長：**

それでは先ほど申し上げましたけれど、レジュメにありますように、前回ヒアリングをしたものの意見集約をするということと、その前に（１）にあります市政改革プラン（第７次行革大綱）についての説明を事務局からしていただくこととなります。

では事務局より（１）の説明をお願いいたします。

**岩田主任：**

はい、それでは議事の（１）市政改革プラン（第７次行革大綱）についてご説明させていただきます。現在皆様に外部評価をしていただいておりますのが第６次の鳥取市行財政改革大綱でございます。こちらが今年度、令和元年度を持ちまして計画期間を終了するというようになっておりまして、その後、令和２年度からの新たな取り組みをどうしていくかというのを検討しております。これについて本日は皆様にご説明させていただければと思います。資料は「市政改革プラン（第７次行革大綱）の策定について」というものをご覧ください。まず本市を取り巻く状況というものをお話しさせていただきます。１つ目は少子高齢化及び人口減少ということですが、鳥取市の生産年齢人口、これは１５歳から６４歳までの人口でございますが、これが平成２０年度末に１２４,０９９人いたものが、平成２９年度末には１１０,６３７人ということで、この１０年ほどの間に１万３千人ほど減少してしまったという状況がございます。それから高齢化率ですが、平成２０年度末が２２．７％であったのに対し、平成２９年度末は２８．１％ということで５％強上昇しているということになります。このほか市の財政状況というものも見ていきますと、市税収につきましては平成２０年度で２５,４４４百万円ございましたが、平成２９年度では２３,５２２百万円ということで減少に転じているという状況でございます。また国からの地方交付税というものも、こちらは平成２５年度からに比較になりますが、２９,２０６百万円あったものが、平成２９年度では２６,１０４百万円というように減ってきておりまして、財政的には厳しい状況が続いてきているというところでございます。併せまして、鳥取市が持つ課題の一つとして公共施設の再配置というものがございます。簡単に言いますとこれから公共施設の維持更新費用が増加していきますよということなんです、鳥取市の公共施設を全て現状のまま今後もずっと保有し続けますと仮定した場合、年間で約６５億５千万円の更新費用ですとか修繕費用が発生するという見込みがございます。こういったものをずっと抱えていくことは非常に厳しいということで、鳥取市を取り巻く状況の中での一つの課題として捉えております。そして、最後に国の動向でございますが、国も少子高齢化、生産年齢人口の減少等を踏まえまして、各自治体に向けて、ＡＩなどの活用ですとか、市民との協働・官民連携、圏域マネジメント、県・市の業務共通基盤の構築と進めましょうという方針を打ち出しております。

こういった様々な状況がございまして、我々としては、今後鳥取市がどう行財政改革に取り組んでいくかということ市政改革プランにまとめていこうとしているわけですが、この市政改革プランを策定するにあたり大きく２つ方針を持っており

ます。まず1つは、「本市の行財政改革が取り組む方向性を示すものとする」ということ  
とでございます。鳥取市総合計画という、鳥取市の一番大きな計画がございまして、こ  
こでは教育ですとか健康ですとか防災ですとか、あらゆる分野の取り組みの方向性が  
盛り込まれたものでございまして、鳥取市の将来像の実現を目指すために作られた計  
画でございます。一方、市政改革プランにつきましては、その総合計画を下支えするた  
めの、行財政の基盤づくりを進めるものという風に位置づけまして、限られた人、物、  
金という資源を最大限に活用しながら、業務執行の効率化ですとか市民サービスの向  
上といったものを目指していきたいと考えております。この資料の下に、総合計画と市  
政改革プランの関係性のイメージ図を載せております。総合計画で将来像の実現を目  
指していく、そのために必要な財政基盤を市政改革プランでしっかり作っていくとい  
うものでございます。それからもう1つの方針ですが、「5年間で成果を出す総合目標  
を設定する」というものでございます。鳥取市の新たな市政改革プランではですね、成  
果の上がる実施計画というものをきちんと数値化して行って、実効性の高い総合目標  
として効果額というものを弾いていきたいと考えております。これを設定することで、  
市政改革プランの計画期間である5年間の成果をしっかりとお見せできるようにして  
いきたいと考えております。続きまして資料の裏面をご覧ください。この下半分は現在  
取り組んでいる第6次鳥取市行財政改革大綱の総合目標の進捗状況を参考に載せてい  
るものです。上半分のところが、市政改革プランをどういった柱立てで作っていくかと  
考えたものでございます。こちらにつきましては、全国に数ある中核市がそれぞれどう  
いった取り組みをしているのかということをお調べしまして、その中でのスタンダードタ  
イプと言いますか、多くの自治体で取り組んでおられるようなものを参考に作ってい  
るものです。左から順に見て行きますと、行財政効果というものを導いていくために大  
きく3つの柱で取り組んでいこうというものです。1つ目は協働・連携による効果的な  
業務、2つ目は職員・組織の改革、3つ目が健全な財政基盤の堅持という大きな3つの  
柱でございます。そしてその柱の下に、例えば協働・連携のところだと、市民と協働  
して事業を進めて行きましょうですとか、官民連携とありますが民間事業者と連携を  
しっかりして行きましょう、そして役所同士で近隣自治体との連携を深めていくこと  
で効率的効果的な業務を進めましょうという考えものです。それから職員・組織の改革  
というものと、まずは我々職員が能力をしっかり高めて行きましょう、そしてそれ  
を活かす組織を作って行きましょうというものです。そして次に働き方改革。今の業  
務のやり方というのを見直して、例えば先ほどAIという言葉も出しましたけれど、機  
械化できるものはないかとかそういったところを考えていこうというものです。その  
下の内部統制は、よくコンプライアンスという言葉も耳にしますが、ルールを明確化し  
て、我々職員がそのルールをしっかり守っていくことで、将来のリスクを押さえたい  
行きましょうという考えのものです。最後の柱、健全な財政基盤の堅持というものにつ  
きましては、歳入確保の取り組み、それから現在やっている業務の歳出をどうやって削減し

ていこうかという取り組みによって、行財政改革を進めて行きたいと考えているものでございます。

今後こういったものを作っていきたいということでございまして、内部的には準備を進めておりますが、市民委員会の皆様はどういったところをご協力いただきたいかということ、次の資料「市民委員会の実績と今後の予定」というものでご説明いたします。この資料の右側の縦列、市政改革プラン（第7次大綱）と書いたところをご覧ください。本日が令和元年度5月の第6回市民委員会でございます。本日は市政改革プランの方針の説明ということで、ただ今お話をさせていただきました。その次が7月に第7回の委員会を開催しまして、ここでは、今内部で検討している市政改革プランの骨子案と取組案をもう少し具体的なものとして皆様にお示しできると思っております。それについてご意見をいただきたいと考えております。10月の第9回の委員会では、さらに具体的なスケジュールや取り組み方法も含めた実施計画をご提示しまして、それについても改めてご意見いただきたいというところでございます。その後、委員会での市政改革プランへの取り組みとしては令和2年に入ってから最終案をご説明させていただきたいと思っております。このような形で皆様のお力をお借りしながら次の5年間に進める行財政改革の取り組みを作っていきたいと考えております。

#### **山下恭史委員長：**

事務局の方から概要をご説明いただきましたが、委員の皆さまからご質問ですとかご意見があればお伺いしたいと思っております。概要ですのでまだ少し分かりづらいかもしれませんが、もしあればお願いいたします。

よろしいでしょうか。ではご質問など無いようですので次の議題に入っていきたいと思っております。この委員会では年度末ごろに外部評価の報告書を作成して提出したいと考えております。スケジュール感については先ほどの説明で使われた「市民委員会の実績と今後の予定」という資料をご覧ください。A4サイズで左上にサンプルと書いてあるものですが、これは前期の委員会です。これで完成品をイメージしていただきたいのですが、総評というところに「継続実施していただきたい」と簡潔にまとめてありまして、その下部分に全体的な意見を整理した文章があります。そして下の方には意見・提言というところがありますが、ここには、必ずしも委員会全体の意見ではないものかもしれないけれど、特に付け加えたいというものがあれば書いていくというものです。概ねこういうものを作っていくんだというイメージが皆様に伝わればと思っておりますが、よろしいでしょうか。今日のこれからの進め方ですが、「担当課ヒアリングで出された意見まとめ」という資料に、前回ヒアリングした際の各委員のご意見を箇条書きにしてありまして、それをまとめるということになるんじゃないでしょうかとしたものです。これをベースにして、事務局にこの4件を説明いただきながら、ヒアリングの時はこう思っていたんだけどやっぱり違うのではないかという

ような意見交換をしていければと思います。では最初に、政策企画課さんの「シティセールス戦略プラン（S Q）のあるまちに基づく取り組みの推進」について事務局からご説明いただければと思います。

**岩田主任：**

前回ヒアリングをご欠席の方にも議事録をお送りしまして、事前にご覧くださいとお願いをしておりましたが、改めまして、ヒアリングの時にどういった説明があったかということも簡単に触れてから資料のご説明をさせていただきます。

こちらのシティセールス戦略プランですが、S Qのあるまちというブランドスローガンを掲げまして、職員が自分たちの行動指針としてアクションプランというものを作って行政サービスの質の向上に向けた取組を行っています。例えば市民の方に気持ちよく窓口に来ていただけるようにしましよとか、各職場でそのような取組を行うということがまず一つの大きな取組です。それからもう一つこの中で取り組んでいるのが、行政だけではなく市民の方や企業の方と連携しながらシティセールスを進めて行きましょというものです。具体的な例としては、ユーチューブでのインターネット放送などを行っていますという説明がございました。そのヒアリングの中で皆様から出されたご意見としては、次のとおりまとめてございます。

（以下、資料読み上げ）

**山下恭史委員長：**

はいありがとうございました。先ほど申し上げたように、最終的にはサンプルで示したように報告書に落とし込んでいきたいと思います。事務局の方でまとめということで記載していただいておりますが、委員の皆様から、総評として私はこう思いますというようなことがあればご意見いただきたいと思います。松本委員さんいかがですか。

**松本委員：**

イメージとしてはこのまとめに書いていただいていることが、サンプルにある総評の下のところに来るとのことだと思いますが、例えば一番上のまとめでは「具体的なイメージをもって取り組むべきと考える。」と書かれたときに、自分が担当者だったらどう考えるかなというのがすごく難しいですね。我々もこう言うんですが、じゃあ具体的に考えるとなると大変だろうなと思ってしまいました。私は10番の意見を言わせてもらったと思うんですが、ヒアリングの時に担当者の方が「砂漠」という表現をされていましたが、そういう風に思っている方に対して実はそこまで不便なところではないんだよというようなイメージでしゃべられていたのかなと思います。一方で吉祥寺のような売り込みの仕方と言いますか、どちらかといえば自虐的なPRの仕方というのを今まであまり見たことが無かったので、具体的に考えるのであれば、やり方としてこういうものもいいのではないかなという意味でこの話を出させてもらいました。このように例えばこういう案としては言えても、まとめコメントとしてどう書くのかというのが難しいですね。市の方に何か考えてという言いっぱなしになると申し訳な

いですし。

**川口委員：**

質問ですが、サンプルの総評というところに、「継続実施していただきたい」という風に大きな結論が書いてあるんですけど、これは何パターンかすでにコメントが用意されていて、そこから選ぶということになりますか。

**山下恭史委員長：**

特にそういったものは無いです。

**川口委員：**

じゃあこちらで作っていくということになるわけですね。であれば、このシティセールスの取り組みについても、こういうものを考えて、まずは結論を出した後に今説明があったようなまとめが下の文章として表記されるということになるので、それをみんな考えていくということになるのですね。

**山下恭史委員長：**

そうです。それについて先ほど松本委員さんからは少し難しいねというようなお話しでしたが。

**川口委員：**

じゃあ例えば、「難しいながらも継続実施していただきたい」というような言い方もあるわけですか。

**山下恭史委員長：**

まあそうですね、例えばまとめ方としてはそういう言い方になることもあるかもしれません。ちなみに皆様、もともとの評価シートはお持ちですか。単に「継続してください」と言っても、担当課が考える継続と、私たちが考える継続とでズレがあってはいけないので、改めて評価シートでどんな取り組みであるのかを確認してみましようか。

**長屋委員：**

具体的に取り組まれていることを見ると、クレドカードを作成して全職員に配布しているということなんですが、クレドカードというのはどんなものですか。

**岩田主任：**

クレドというのは指針とか目指すものとかそういうことなんですが、職員行動指針として、例えば「私たちは、常に資質の向上に努めます。」とか、我々が職員としてどういう考え方をしていく必要があるのかというのを意識できるように、こういったものが書かれたカードを携帯しています。

**長屋委員：**

これは職員に向けてのアクションということですよ。その後は、私たち市民に対してのアクションをこれから起こしていこうとしていて、そのために来期も予算を付けてやっていこうとしているということではないんですかね。

**山下恭史委員長：**

はい、そういうことだと思います。評価シートの上の方に年度別計画という部分があるので見ていただきたいんですが、ここの平成29年度のところに、シティセールス戦略プラン「S Qのあるまち」に基づいたシティセールスの継続実施とありまして、これは平成30年度も引き続きしておられるものと思います。そして今年度は、それらの取り組みを継続しながら、シティセールス戦略プランの見直しという計画になっておりますので、そうなっているという理解で良いのかなと思います。

今日、この場で総評のところ为抓手と固まらなくても、今日の議論を基に事務局の方で総評の原案を作ってもらおうということに実際はなるとと思いますので、何かしらご意見は出していただけた方が、事務局もまとめやすいと思います。ですからご意見があれば言っていただいて、現時点の資料のとおりで良いということであればこの中から大筋のところをまとめていくことになると思います。いかがでしょうか、何かご意見ございますか。

**長屋委員：**

まとめとしてはこのようなことだと思います。

**山下恭史委員長：**

他にご意見はございますか。

**谷口委員：**

よろしいですか。一番下のまとめに、「地域魅力度の向上を目指すのであれば別の取り組みとするか、または目標順位100位は非常に高い目標であるので、指標を再検討するなど」とあります。平成29年度で鳥取が232位という状況で100位という目標を再検討するというのは、イコール下げるということだと思いますが、例えば市民としては、魅力度が200位とか150位と言われてもあまりピンと来ないというか、正直それで鳥取市が頑張っているとは感じにくいと思います。だからこそ初めに目標を立てられた担当の方もそういう思いで100位という数字を出してきたんだと思いますので、そういう面を考えればあまり100位を下げるというのはどうなのかなという気がします。たとえそれで目標値を達成できたとしても、本来の目的を達成したとは言えないのではないかと思います。それなら取り組みを別のものにするという方に重点を置いた方が良いのではないかと思います。

**松本委員：**

前回のヒアリングの時に、確か平成30年度では171位とおっしゃってましたね。それで100位はちょっと厳しいんじゃないかという話になりましたね。あとはここで数値的な目標っているのかなということもありましたし、結局じゃあ何位が良いのかなってということにもなってしまいますよね。

**山下恭史委員長：**

私の個人的な思いからすれば指標は100位でもいいんですが、今の施策を漫然とや

っていたのではたぶん目標達成は難しいだろうと思います。まず、まとめの一番上に、鳥取市の魅力をシティセールスでと書いてありますが、じゃあ何が魅力なのかということがまだ漠然としておりますので、何を売り出していくかというのをきちんと明確にして、もう少しスピード感を持って対応策を打ち出していかないと多分無理だろうなと思います。現状把握というのがまだ不十分でして、順位の把握ということではなくて、鳥取市の現状として便利であるとかそうではないとかいう議論もありましたけれど、居住環境であったり自然環境であったり食の分野というは移住されて来た方の満足度が高いとアンケート結果で出ているので、こういうものをもっと売り出していくということはあるのではないかと思います。公共交通は大都市ほど整備はされておられませんけれども、一定距離の範囲内であれば日常生活は充分可能な、いわゆるコンパクトシティという考え方からすれば、ある程度は便利ではあるという風にも思います。ですからそういう打ち出し方をしているということですし、加えて、車を持ってもらっやらない人もいるという話も前回出ていましたけれど、最近だんだん広がってきたカーシェアリングとかライドシェア、あるいは電動バイクといったものも検討してみて、公共交通を補完するような手段を考えて売り出していくというのも良いのではないかなと思います。

**徳本委員：**

私も今のお話しに同感です。その通りだなと思いました。それと確認したいのですが、そもそもこのシティセールス戦略プランというものに取り組んで何を達成したいんでしょうか。着地点といいますか。

**岩田主任：**

シティセールス戦略プランとしては数値目標も掲げておりました、今回指標として取り上げている地域魅力度というのもその一つですし、その他にも市民の愛着度や市民サービス満足度というもの。これはおそらくアンケートか何かで取って行くことになるとは思いますがそういうものを目標としては目指しているということです。

**徳本委員：**

100位になったらどうなるのかっていうのはありますか。何のために100位というか上位を目指すのか。

**岩田主任：**

評価シートをご覧いただけたらと思いますが、上の方に行財政効果という欄がありまして、そこには「シティセールスを推進することで、交流人口の増加、企業誘致、移住定住等を促進し、税収増加を図ります。」としておりまして、ここが将来的には目指したいところかなと考えています。

**徳本委員：**

企業誘致の方はあまり詳しくありませんが、少なくとも県外から移住を考えられる人は都会からの人が多いです。そういう中で売り出していく鳥取の魅力っていうのは



都会に対抗するものではなくて、何にも無いことがすごい魅力なんだと思うんです。そういうことにたぶん鳥取の方は気づけないということがあって、外部から入ってきた人が新しいことを始めるということが私の周りでは多いです。ですから中で考えるというよりも委員長がおっしゃられたように外から見た鳥取っていうのがどういうものなんだろうというような情報収集をもっとしないと、それぞれが主観的に物を言っていて、市の方針とかも決まりにくいんじゃないかなと思います。おそらく結果は全て出ているので、そこをきっちり把握していかないと、今の取り組みを見ても具体的な策が何もなく、どう思われますかと聞かれても何を言っているのかが分からない感じですか。これを繰り返していても進まないんじゃないかなと思います。先日のヒアリングを聞いても、具体的なことが無いですね。そこを、必死に材料を集めて考えてやってみるというのをスピード感を持ってやっていかないといけないんじゃないかなと思います。

**山下恭史委員長：**

ありがとうございます。その他、田村委員さんどう思われますか。

**田村委員：**

皆様がおっしゃるように、魅力をしっかり理解できるような形にというのももちろんありますし、あとは設定されている目標達成に向けた過程と目標値のズレを感じる部分もあります。過程を修正されるか目標を修正されるか、どちらかをご検討いただくような形が良いのかなと思います。

**徳本委員：**

このS Qのあるまちというのと、次の議題の移住定住の推進ってすごく繋がっていますよね。住み分けが難しく、話も切り離せないなと思うんですけど、例えば毎回移住相談の相談役をされている方が生の声を聴いておられると思うので、そういう声も大事じゃないかと思います。

**長屋委員：**

まちの魅力って人によって感じる場所が違いますよね。賑やかなところが魅力的と感じる人もいれば、何も無いところに暮らしたいなと思う人もそれぞれあると思います。なので、例えば外に移住された人に、どうして移住されたのかを聞かれば、いろいろな意見が出てくるとは思いますが、そこにヒントがあるんじゃないかなと思います。来られた人の意見を聞くのもすごく大切ですが、出ていく人に、なんで鳥取を捨てていくのかっていうのを聞いていただくのも一つのきっかけになるんじゃないかなと思います。

例えば鳥取はどうしても雪が多いですね。雪が降るのは自然のことなので仕方ないんですが、雪が降った時にどういう風に鳥取市のバスとか列車などの公共交通機関が動いているとか、道路の雪がかいてあるとかないとか、そういう所の整備とか、あるいは雪が降った時に、ガソリンなんかも高騰していますからそういうところをど

う対応していくのかとか、そういうことがもう少しできていれば、雪が嫌だという人も少しは暮らしやすくなるのかなと思います。あとは子どもの進学で考えた時に、子どもがビジネスとか簿記とかを勉強したいと思っても大学に行かせる余裕がなくて、でも専門学校だったら行かせられるなという家庭もたくさんあると思うんです。でも鳥取には医療の専門学校しかないので、県外に行かないといけなくなるんですが、子供を出すということは学費以外の経費も必要になるので、それで断念して働きに出るとのことだと思っています。そういう、子育ての環境なども対策がなされれば、もっと鳥取にいたいと思う人も出るかもしれません。それから今のこの評価シートには、鳥取市のシティセールス戦略についての研修を実施すると書いてあるんですけど、例えば熱海なんかは、観光の課の方が積極的にテレビとかに来てよ来てよとアピールして、メディアを使って良い所を紹介したりとか、観光客を歓迎しているような気運が見られた結果、今復活してきたじゃないですか。だから職員一人ひとりに研修するのも良いとは思いますが、それだけで鳥取市は良いんだよとアピールできるようになるかというところではないと思います。なので職員研修を厚くする以外に、担当課の職員の方たちが県外の先進的な地域に出向いて、思いっきりアピールする力を付けていただいて専門的にやっていただいた方が、もっと日本中世界中に広がるものになっていくんじゃないかなと思います。

**山下恭史委員長：**

ありがとうございます。ちなみ熱海はランキングで行くと17位でした。

**長屋委員：**

前はすごい下火だったんですね。

**山下恭史委員長：**

それこそメディアを使ってシティセールスを積極的にしてきた結果ということなんでしょうね。

**松本委員：**

よろしいでしょうか。この評価シートの行財政効果のところを見ていたんですが、最終的には税収増加を図るところがテーマで、そのために交流人口を増加させましょうとか企業誘致をしましょう、移住定住を促進しましょうということを議論する場だと思いますし、会社経営に例えると儲けを出すために鳥取市をどうしていくのかということだと思います。逆に移住者とか企業誘致で人がたくさん集まりだすと、今まで住みやすかったのに住みにくくなったじゃないかっていう矛盾は施策の中で出てくると思いますので、あとはそこをどうバランスを取ってやっていくかというのを意見を出して考えていただくというのが良いのかなと思います。

**山下恭史委員長：**

たくさんご意見もいただきましたが、こればかりずっと議論をしても他のものもありますので、ここまでいただいたご意見を参考にしながら事務局と協議して原

案を作ってみたいと思います。ではひとまずこのテーマについては区切りたいと思います。

次に、地域推進型移住定住の促進ということで、事務局からご説明いただけますか。

**岩田主任：**

はい、続いての地域推進型移住定住の促進についてですが、ここでの主な取り組みとしては、支所エリアの地元の方にご協力をいただきまして、空き家の管理運営というのを委託しているというものです。それによってしっかり空き家を確保して、移住を希望される方に住居を紹介できるようにするということが主なところでございます。ヒアリングの際には担当課から、この他の移住定住策として様々な事例も紹介していただきました。移住・情報交流ガーデンや東京・大阪に相談員を配置して相談窓口を設けていますとか、移住定住フェアのようなイベントに出展して皆さんにPRしていますといったご紹介。それから鳥取体験ガイドワーホリツアーという取り組みですとか、就職活動をしに鳥取に帰ってくる時のUターン者への交通費の補助を出しますといったような様々な取り組みをして、移住定住の促進に向かっていますという全体のご説明をいただきました。その中で皆様にごいただいたご意見としては次の資料のようになります。

(以下、資料読み上げ)

**山下恭史委員長：**

ありがとうございました。ここについてはヒアリング時には委員さんの見解の相違というのはあまりなかったかなと思っております。移住フェアについては、費用対効果が充分検討されたものではない。引続きするのなら魅力的な企画等を考えるような抜本的な見直しが必要です、ということですね。それと、実際の移住希望者のニーズに併せた取り組みあるいは移住の施策が必要です、要するに多彩なメニューを用意してください、というようなことがまとめになっております。

これについて皆さんからご意見をお伺いしたいと思います。

**松本委員：**

移住については一定の効果は出ているんですね。鳥取市さんもすごく頑張っておられるので。移住定住にはこれまでもだいぶお金を使ってこられたと思うんですけど、まずは初期投資というか、移住者を増やすために投資したいという認識で良いのであれば、ここからは効率的にそれを継続していく仕組みというものを考える時期に入っていくのかなと思います。であれば、まとめの費用対効果のところ「抜本的な」と書いてあるんですが、抜本的でなくとも見直しという表現でも良いのかなと思いました。

**山下恭史委員長：**

ちょっと確認なんですけど、評価シートの目標のところなんですけれど、平成27年度で12世帯、平成28年度で15世帯とあります。これは支所エリアの移住定住世帯数と

ということなので、いわゆる新市のエリアに移住されたあるいはしようとしている世帯の目標であったり実績ということですか。

**岩田主任：**

こちらは移住相談業務等を通して、この支所エリアで確保した空き家に入っていた世帯というものです。

**山下恭史委員長：**

ということは、目標の立て方がどうかということはあるかもしれませんが、ほぼ目標達成してきているということですね。

**岩田主任：**

ここまではそのような結果になります。

**川口委員：**

支所エリアに限っているのはどういう事情なんですか。

**岩田主任：**

この市街地のあたり、それから国府町のあたりは、不動産屋さんが紹介できる住居の数が比較的多いということがあります。そういうものが少ないと思われるところについて、行政と地元の方が一緒に力を入れて空き家を確保していこうという動きをしているものです。

**山下恭史委員長：**

移住定住の全数というのは出ていないですか。

**岩田主任：**

そういった数字は把握してはおりますが、本日手元には資料をご用意しておりません。

**長屋委員：**

情報ガーデンなどへの、移住したいというような問合せって年に何件くらいあるんですか。

**山下恭史委員長：**

それは確か資料をいただいていたね。

**岩田主任：**

すみません、先ほど移住者全体の数が分からないかというご質問がありまして、それに本日資料はご用意していないとお答えしましたが、以前お配りした資料にございましたので、これからコピーして追加でお渡しさせていただきます。

**徳本委員：**

よろしいですか。今、空き家を地域の人たちと確保されているということでしたけれど、感触とかどのくらいのペースでできているのかとか分かりますか。結構空き家はあるんだけど長男が帰ってくるからとか、仏壇があるから貸せないとかということが、私の周りではよく聞くので、行政と一緒にやっていただいて、空き家がたくさん出てく

ると良いなと思うんですが、実際のところどんな感触なんでしょうか。

**山下恭史委員長：**

担当の方じゃないと分からないかもしれませんね。

**岩田主任：**

また確認させていただきます。(※1)

(※1) 委員会当日、事務局からはこのようにお答えしておりますが、後日担当課から以下のとおり回答をいただいております。

——以下、担当課回答——

委員ご指摘のとおり、所有者様のご都合や建物の状況等により、移住者向け住居として提供できないものも多く、空き家確保には難しい面もありますが、空き家の管理運営を委託している地元団体では、毎年空き家調査を行い、移住者に提供可能な住居確保に取り組んでいただいております。

▶平成30年度実績（支所エリア全体）：調査129件、空き家登録件数10件

**山下恭史委員長：**

そうですね。おっしゃられるように空き家になっているけれど貸したくないとか、あるいは、空き家に住んでもらおうと思ったら改修にかなり費用が掛かるということがあるようですね。ですからどんどん進められるという状況ではないのかもしれないですね、所有者さんのご都合もありますので。

**徳本委員：**

その補助とかはあるんですたっけ。

**山下恭史委員長：**

補助は確かありましたよね。

**岩田主任：**

空き家に入る前の家財道具を片づけたりするときの処分費用の助成ですとか。

**徳本委員：**

リフォームはどうですか。

**岩田主任：**

リフォームに使えるものもあつたと思います。

**松本委員：**

空き家を使って商売をしたいという人のものだったら鳥取銀行でもあるんですよ。鳥取市さんと連携して作ったんですけど、リノベーションの融資とファンドを。

**徳本委員：**

商売の方は補助してもらえるんだけど、個人が住む場合はほとんどないんですよ。そういうの作ってください。

**長屋委員：**

そうですね、そういうのは探してもないですね。

**山下恭史委員長：**

他になければ、先ほどの論点等をベースにしてこれもまとめていけるかなと思います。それでは次に移ろうと思います。よろしいでしょうか。

じゃあ砂像のまちと通りの推進について、事務局からお願いします。

**岩田主任：**

はい、では砂像のまちと通りの推進ということで、こちらの大きな業務の中身としましては、まず皆さんご存知かと思います砂の美術館の運営ですね。それからもう一つは砂のルネッサンスという大きなイベントを実施しまして、砂や砂像の文化を醸成していきたいというものでございます。ヒアリングでは担当課の考え方として、鳥取には全国に誇れる砂丘というものがあるので、これのブランディングをしっかりと進めたいという思いでやっているということでもございました。特に最近は、砂と子ども教育の関わりというものに力を入れているということや、砂のルネッサンスでは砂像選手権というものを開催しておりまして、この参加者も増えてきていますということでした。それから砂丘周辺のエリアではお土産物なども最近はずいぶん増えてきましたというようなご説明がありました。それに対してご意見が出たところとしては次のようなものです。

(以下、資料読み上げ)

**山下恭史委員長：**

はい、これについても何か付け加えるようなコメントがあればお願いしたいと思います。ここでも特に委員さんの否定的な捉え方は特に無かったかと思しますので、今後さらにお客さんに来てもらうためにどうしていこうかというようなことがまとめられております。それから来てもらった方に、さらに中心市街地の方まで回遊してもらうとか、あるいはここでは白兔海岸しか挙げていませんが、今であれば万葉歴史館だとか宇部神社などのように、令和になってお客さんが増えているところもありますので、そういったところとの相互の連携というのもますます必要になってくるのかなと思います。

どなたか追加のご意見等があればお聞かせいただきたいですが。

**田村委員：**

追加ということではありませんが、鳥取砂丘の観光とまちなかをいかに繋げていくかというところは、力を入れていただけたらと思います。どうしても砂丘に行かれるとまちなかを通り過ぎて行ってしまうので、そういう所を考えていくことに重点を置いていただきたいなと思います。

**谷口委員：**

すみませんよろしいですか。鳥取砂丘に行くと、もちろん日本の方も多ですが外国方もちらほら見られます。そこで、魅力の向上とは少し違うのかもしれませんが、マナ

一の徹底というのも考えてもいいのかなと思いました。先日、夕方に行ったときに、外国の方がテントを張ってキャンプをされていました。あまり良くないなと思っていて、おそらく知らないだけだと思うんですけど、日本の方も外国の方も気持ちよく観光してもらえるように、そういったマナーというのは徹底させていく必要があるのかなと感じました。

**徳本委員：**

砂丘ってキャンプしたら駄目ですよ。私、砂丘で運動会をさせていただいているんですけど、椅子一脚から全部申請しないとイケなくて、当日ちょっと多いと注意されたりするくらいですから。そのマナー徹底はしてほしいです。

**川口委員：**

先ほど田村委員さんが言われた、砂丘とまちなかの回遊とか、あとは市全体で観光振興というのにも繋がることだと思うんですが、この評価シートの行財政効果のところに「鳥取砂丘の砂像」ブランド力向上による交流人口の拡大及び滞在型観光の促進を図ります。」とありますので、宿泊するというのも含めて、砂丘のあるまちづくりというのをどう展開していくのかを考える必要があると思います。砂の美術館だけをどうするのかという話ではなくて、いかに鳥取市内に泊まってもらってお金を落としてもらうかということが大事なので、例えば宿泊プランと砂の美術館を併せたパックみたいなものを考えますとか、ただ入館料だけを落としてもらうのでは大した経済効果ではないと思うので、やっぱりどうしたら一泊でもしてもらえるかということを考えて、砂の美術館や砂丘エリアをどうするのかという風に考えていかないと、滞在型観光の促進なんていうのは図れないと思いました。

**徳本委員：**

私のやっている幼稚園に海外の方がおられまして、その方が親戚とか家族が来た時に泊まる場所がないと言っていました。おもてなしができる場所がないということで、結局三朝とか大山まで行ってしまうということでした。鳥取ってあまり宿泊が良くなくて、せっかく海外の方もいっぱいいらして下さっているのに、そこをどうきちんと満足してお金を落として帰ってもらうかということがどうなのかなと思います。すぐもったいない気がしています。

**岩田主任：**

おっしゃられるところごもっともでして、前回のヒアリングでも担当課がアンケートの紹介をさせていただいておりました。砂の美術館でアンケートを取っていて、その中で宿泊地も併せて聞いているというものでしたが、やはり三朝温泉とか湯村温泉とか城崎温泉という回答があるという説明がありましたので、そのあたりは担当課としても課題としての認識はあると思いますので、今言っていたようなご意見も含めて今後の対策というのは考えていく必要があるかなと思います。ありがとうございます。

**山下恭史委員長：**

他にどうでしょうか。

**徳本委員：**

コナンの砂像はすぐにでもやってほしいです。

**松本委員：**

砂の美術館は今指定管理者に運営してもらっているということでしたが、テーマは協議しながら決めておられるんですって。

**岩田主任：**

そうですね、ヒアリングの時の説明では指定管理者と市とで協議しながらそういったものも検討していますよということでした。

**松本委員：**

今のような、こちらからの意見も伝えることはできるのでしょうか。

**岩田主任：**

そうですね、いただいているご意見はもちろん担当課には伝えますし、砂の美術館のアンケートでもそういったご意見をいただいているという話がありましたので。それと、確かヒアリングの時の話では、砂のルネッサンスの方で一度そういったサブカルチャー的なものを試してみて、評判を見ながら美術館の方でも今後どうしていくかというのを考えたいですという回答をしていただいていたので、そういう前向きな気持ちではいるとは思いますが。

**山下恭史委員長：**

他にはありませんか。無ければ次に行きたいと思います。

では最後のところで、プレミアム付きふるさとプレゼントの推進、ふるさと納税ポイント制度の導入、ふるさと納税ポイント制度の運用ということで、ご説明をお願いします。

**岩田主任：**

はい、こちらはふるさと納税を進めていきたいというものでございまして、鳥取市としてはふるさと納税のポイント制度なども導入しながら、返礼品として出品される品数を増やしたりだとか、寄附をいただき易くするような取り組みを頑張ってきたというものでございます。前回のヒアリングでは担当課から色々と説明がありましたが、その中でまず皆様にご説明したかったと言われていたものが、ふるさと寄附金の制度が最近変わったということでした。大きな流れとしては、平成 29 年度に返礼品を 3 割以下にしろという方針が国から示されました。鳥取市としてはその方針に沿って、3 割の中での返礼品ということにきちんと対応しました。結果としてはその方針への対応のタイミングによって、自治体によってはもう少し対応が遅いところもあったということがあって、それらの自治体に比べると鳥取市の返礼品が若干見劣りするというような影響もあり寄附額が減ってしまったという説明でございました。このほか、鳥取市がふるさと寄附金に向かって行くスタンスについてもお話いただきました。単に



寄附金を集めるだけでなく、ふるさと寄附金の持つ情報発信力を有効に活用して地場産品をPRしたりですとか、鳥取市の施策を知っていただいたりという発信に使っているんですという説明でした。このようなお話ののち皆様から出たご意見としては資料のとおりでございます。

(以下、資料を読み上げ)

**山下恭史委員長：**

はい、どうもありがとうございました。ポイント制度に関するご意見というのがここには挙がっていないんですが、あれは選択できるということでもいいんですよ。

**岩田主任：**

はい、鳥取市に会員登録をしてポイントを使うという方法もありますが、全体で見ると8割くらいの方は直接金額表示されているサイトから寄附されているということでございます。

**山下恭史委員長：**

どなたか、何かご意見ございますか。

**松本委員：**

関西の方の自治体の例もありますけど、むちゃくちゃなことはもうできないと思うので、やはりこの真ん中のまとめに書いてあるように、目玉商品というか良いものを作ってもらおうということかと思えます。それからふるさと納税に選ばれることが光栄だという風になるような仕組みを鳥取市さんにはお願いするということがあるのかなと。この資料に大山ブランドとありますけれど、今は大山〇〇と付くと良く売れると聞きますので、それが鳥取だと何なのか、砂丘〇〇ということなのか分かりませんが、とにかくそういうブランド化ができるような働きかけを企業にもしたいので、そういうことに繋がるためのお金が良いのか何なのかは難しいですけど、施策は考えていただけたらなと思います。少なくとも今年はこれで良いのかなと思います。

**山下恭史委員長：**

ヒアリングの時も少し話に出ていたんですが、モノの消費からコトの消費へということで、体験型の商品が全国的にも出てきていますよね。それが鳥取市の場合は、パラグライダーが平成28年度までは100件弱あったけれど、昨年度は1~2件であったという説明でした。これは今まで多かったというのには何か理由があるんでしょうか。前回聞けばよかったですけど。

**岩田主任：**

申し訳ございません、今、私では答えを持っておりませんので、また確認させていただきます。(※2)

(※2) 委員会当日、事務局からはこのようにお答えしておりますが、後日担当課から以下のとおり回答をいただいております。
---

——以下、担当課回答——

国が示した方針により、平成 29 年度より鳥取市では返礼品を寄附額の 3 割以内としました。その結果、パラグライダー体験を返礼品として受け取るための必要寄附額が増額となったことが、件数減少の主な要因と考えられます。

**徳本委員：**

都城市が肉と焼酎で 70 億というのは、これはもともと有名なところなんですか。

**山下恭史委員長：**

私達も都城って聞いても正直イメージはないですよ。

**徳本委員：**

そうですね、私も知らなかったの。お得という感じなんですかね。

**山下恭史委員長：**

そういうことなのでしょうね。その他は何かご意見ありますか。なければここは、体験型なども含めて選択肢を増やすと同時に鳥取市らしさというのを失わないようにしましょう。なおかつ鳥取市そのものをこれを機にさらに PR を深めていきたいと思います。まとめるとしたらこんなところでしょうか。これはこれでなかなか難しいかもしれませんけど。

**徳本委員：**

ふるさと納税をする人っていうのは、パンフレットを見てするんですよ。

**山下恭史委員長：**

パンフレットとかホームページもあるでしょうね。ホームページだとランキングなんかも出ていますからね。ふるさと納税上位というような。

**徳本委員：**

そういうのを見てしているんですかね。わたし、鳥取のねばりっこが大好きでよく食べるんですけど、そういうのってあまり知られていないじゃないですか。ふるさと納税ということだけではなくて、都会のスーパーにこういう鳥取の物が並んだらいいなと思いますので、普段から鳥取の物になじめるようなやり方ができないかなと思います。

**山下恭史委員長：**

鳥取市ではねばりっこは難しいかもしれませんね。北栄あたりだと良く作っているけれど。

**長屋委員：**

鳥取県中部のものですね。

**徳本委員：**

なるほど、じゃあ鳥取市の物としては出しにくいですね。

**長屋委員：**

砂丘の景観を守るために寄附をして、その代わりに砂の美術館のチケットとプレゼントするとかっていうのはないですか。

**山下恭史委員長：**

作ろうと思えばそういうものもできそうですね。

**徳本委員：**

是非プレゼントして、砂の美術館を見に鳥取に来てほしいですよ。

**長屋委員：**

鳥取市民としては砂丘はやっぱり誇りに思えるものだと思うので、普段口にはしないかもしれないけれど、鳥取には何がありますかと聞かれたら県外では砂丘ですと言いますから。

**山下恭史委員長：**

納税の使途のところ、他えば鳥取砂丘の景観とか、教育関係とか色々ありますけれどそういうものを掲載してもらって、後は商品提供のところは、砂丘に関するグッズとかも増えているということでしたのでそういったものを返礼品一覧に載せてもらうということでしょうか。

**岩田主任：**

寄附の使い道のところでいけば、今のパンフレットにも鳥取砂丘の保全と活性化に使って行きますよという紹介はさせていただいておりますので、それと、砂の美術館のグッズとかを結び付けてやるともっと面白いんじゃないかということですね。ありがとうございます。

**川口委員：**

使途についても、景観の保全に使っていますというだけだと漠然としていてイメージできないので、こういう部分を修復しましたよとか、こうなりましたというビフォーアフターが分かるようにすると良いと思います。そうするとこの資料の7番目の返礼品だけではない動機づけというのに繋がると思います。ただ漠然と言うのではなくて、このお金でこうなったですとかこれを継続したいんですという風にした方が、動機づけは強まる気がします。

**徳本委員：**

砂丘でラクダに乗って写真を撮るとモロッコみたいに見えるらしいんですよ。だからそういう写真撮り権みたいなものを作って、あの砂漠のイメージの衣装を着てわざわざ鳥取に撮りに来てもらうというものが出来たら面白いかなと思います。

**長屋委員：**

インスタとかに上げてもらって。市役所の方は一日一回必ずインスタに投稿するかしたら、広報にはなると思いますけどね。あとはホームページも必ず開くとかしたら上位に来るんじゃないかと。

**徳本委員：**

「今日の砂丘」みたいな感じで。市役所の人が衣装着て。

**山下恭史委員長：**

業務時間中は難しいかもしれませんね。前にどこかがランキング上位にするために組織的に検索して問題になったことがありましたね。

**岩田主任：**

広報として投稿するのは良いかもしれませんが、業務時間中にみんながいいねを押していたら問題かもしれませんね。

**徳本委員：**

確かにみんなでわざといいねを押して釣り上げたらいけませんよね。

**長屋委員：**

でも広報にはインスタとか良いですよ。海外の人も見れますし。

**山下恭史委員長：**

たくさんご意見いただきました。他にご意見あればと思いますが。無いようでしたらこのふるさと寄附金のものも終わります。今日は4つのテーマについてご意見を頂戴しましたけれど、追加で全体を通してこれは言っておきたいと言うことがあればお願いしたいと思います。

#### 4. その他

**山下恭史委員長：**

特に皆さんから無いようでしたら本日の議事は終わりたいと思います。ではその他のところで事務局から何かあればお願いします。

**河口行財政改革課長：**

本日はありがとうございました。たくさんのご意見いただきましたので、これから外部評価の結果ということでもしっかりまとめさせていただいて、次回またご議論いただきながら、総評としてこれからも継続するのが良いのか、あるいは抜本的な見直しがあるのかというのはまたご意見いただけたらと思います。今日は4つのテーマについて意見を交わしていただきました。私も耳の痛いところでございます。外から見た鳥取というのはやはり重要だなという風に私も思いました。それから現実と目標との差ですとかスピード感を持ってということ。そして移住というものに対する意見というのを我々は来ていただいた人からしか聞かないですが、こちらから出ていかれる方の意見というのは重要なものだなという風に思いました。それから熱海のお話ですが、先ほどおっしゃっていただいたようにシティセールスがすごいところでございまして、我々もそういったところに視察に行かせるようにしていこうかなと思っております。これからの鳥取市に期待していただければと思います。もう一つシティセールスでいけば委員長様の挨拶にありましたけど、麒麟のまちが日本遺産にこの度やっと認定さ

れたということをごさいます、こういったものに引き続き取り組んでいきたいと考えております。砂丘というどうしてもイメージカラーで行けば茶色になってしまうんですけど、この麒麟獅子というのは、赤と金色でかなりきらびやかなものなので、こういったイメージをどんどんつけていきたいと思っております。これはDMOという観光推進組織がありますので、こちらでしっかり進めていきたいと思っております。それから移住相談会については、ある程度成果は上がっているんですが、確かに費用対効果というのはどうかなという悩みはございます。そして移住希望者のニーズに合せたような取り組みというのが、本当に今はどうなのかということも考えないといけないと思っております。現在、鳥取県や鳥取市に限らず、全国的に東京への一極集中が問題になっています。これをなんとか打破したいということで、実は今、東京から起業者を呼び込むためにはどうしたらいいのかという新たな対策を練っているところです。また、砂像のまちですけど、コナンは実際どこまでできるかというのはあるんですが、担当課と市長の方にはしっかり伝えていきたいと思っております。確かにずっと砂で世界旅行というテーマで来ていますので、親しみやすいテーマなど、そろそろ見直しの時期に来ているのかなと思っております。あとはマナーですとか、回遊性のお話しについてもしっかり考えていきたいと思っておりますし、滞在型観光については喫緊の課題だと思っております。また近々、砂丘のエリア全体の構想と併せて泊まっていていただくというようなことも含めた計画というものをお示ししていきたいと考えております。そして最後のふるさと納税でございますけれど、先ほど松本委員さんが言っていただきましたが関西の自治体ではアマゾンの商品券で250億円という、鳥取市の税収が230億ぐらいですから、それよりも多くの額を集めてきているということになります。こういうことはなかなかできないんですけど、皆さんに言っていただいたように、商品化とかブランド化というのは大事な事かなと思っておりますし、今まではビフォーアフターというようなことは出しておりませんでした。こういったもので何が直ったのか、こういったものを作って子どもたちが喜んだのかというようなところを、きめ細やかにしていくというのは非常に良いなと思えました。例えば熊本城なんかは、寄附した方の名前を瓦に入れたりしていますので、そういった寄附の仕方が動機づけになるように取り組むということも必要かなと思っております。このほかブランド力ということで言えば、次世代農業などの新しい産業も考えようとしておりまして、いずれ鳥取市のブランドを高めていきたいと思っておりますので、引き続きまた皆さんのご意見を参考にしながら市政に活かしていきたいと考えております。本日は本当にありがとうございました。

## 5. 閉会

### 山下恭史委員長：

はい、ありがとうございました。ではちょうど時間になりましたので、これで第6回の鳥取市行財政改革推進市民委員会を終了いたします。これから暑い日が続きます

ので、委員の皆様は体調管理に気を付けていただければと思います。本日はありがとうございました。

---